

昇してゆくのでブロッキングがよくわからないのである。これについては現在なお調査中である。

(紹介者注) Labitzke 博士の講演で注目される点は、今まで成層圏昇温が、その時期についても強さについても毎年非常に異なりうまくまとめるのが困難視されていたのを、

(A) 1, 2月の midwinter warming

I. フリューション型, II. ヨーロッパ型, III. アメリカ型

(B) 3月の final spring warming

と明確に分類し、しかも低緯度にみられる26ヶ月周期に対応した変化が高緯度のシノプチック・スケールの現象にも見られることを発見された点であろう。

この紹介は Labitzke 博士の講演を通訳された須田博士のメモに負う所が大きい。また長期予報管理官室、高層課の皆様にも校閲加筆の労をいただいた。あわせてここに感謝の意を表する。なお講演はその大部分がスライドの説明であったため、入手しやすい図はとり入れるようにしたが、文章は modify したことを附記しておく。

国際雲物理会議の参加者と傍聴者について

上のことについて国際雲物理学会議組織委員長より下記の通り当学会理事長宛申出がありましたのでお知らせします。参加者又は傍聴を御希望の会員は直接同会議事務局宛申込み願います。

記

本年5月、IAMAP/IUGG, WMO, 日本学術会議及び日本気象学会は、四者共催の下に、別紙の通り1965年国際雲物理学会議を開催することになりました。

つきましては、会場の余裕のある限り、多数の方々の御参加又は傍聴を希望しておりますので、御多用中恐縮ながら、出席の御希望者の氏名、勤務先を至急(遅くとも3月末日までに)御知らせ下さるようお願いいたします。

なお、宛先は下記に願います。

東京都杉並区馬橋4~499 気象研究所内
国際雲物理学会議事務局長

大谷 東 平

1. 会議の議題

今回の会議では、(1)降雨雪機構に関する問題 (2)凝結核および氷晶核の問題 (3)雲の力学的な問題 (4)雲物理と関係の深いレーダー気象学、気象電気学、大気化学の問題 (5)人工降雨の基礎研究に関連した問題が主な議題となっています。これらに関する研究発表及び討論が行なわれます。

2. 日程と場所

5月24日(月)~28日(金)

場所 東京 帝国ホテル会議室

5月31日(月)~6月1日(火)

場所 札幌 北大クラーク会館

3. 会議用語 英語

4. 登 録

参加者は、会場受付において2,000円を添えて登録していただきます。

5. 資 料

プログラム、アブストラクト集、予稿集等を準備しております。

6. 会議以外の催し

レセプション、エクスカージョンが予定されていますが、詳細は未定です。

7. 傍聴者について

会議を傍聴したい方々のために、傍聴者の席を設けます。

傍聴者の登録料は200円とし、プログラムを御渡しします。

傍聴の御希望者は、会議当日までに便宜の方法で、事務局宛に御知らせ下さい。